

令和元年度 特定非営利活動法人日本レスキュー協会事業報告

(期間：令和元年9月1日から令和2年8月31日)

■日本レスキュー協会全体の動き P：3

- ・組織
- ・組織の動き

■事業の成果

【災害救助犬事業】 P：4～6

- ・令和元年8月九州北部豪雨災害対応
- ・令和2年7月九州豪雨災害対応
- ・災害救助犬の標準化に向けた事業
- ・他機関との連携および訓練
- ・山岳捜索セミナー（岐阜）開催
- ・救助犬サポーター養成講座開講
- ・しつけ教室開講
- ・災害救助犬候補犬の導入
- ・協定締結
- ・その他
- ・災害救助犬事業人材確保

【セラピードッグ事業】 P：7～10

- ・被災地慰問活動（令和元年8月九州北部豪雨災害・東日本大震災・平成30年7月豪雨災害・熊本地震）
- ・母子医療センターでの取り組み
- ・活動資金について
- ・セラピードッグハウス「心と心」の運営
- ・セラピードッグ派遣事業
- ・セラピードッグ候補犬の育成

【動物福祉事業】 P : 11~13

- ・犬の保護、引き取りと管理に関する事業
- ・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業
- ・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業
- ・災害への対応（令和元年8月九州北部豪雨災害・令和元年東日本台風（台風19号）・令和2年7月九州北部豪雨災害）
- ・保護犬を災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業
- ・犬のしつけ方教室の開催
- ・愛犬とともに学べる防災知識の発信
- ・動物福祉事業組織体制

【佐賀県支部】 P : 14~16

- ・活動資金調達について
- ・災害救助犬事業
- ・セラピードッグ事業
- ・本部動物福祉事業関連
- ・その他

■日本レスキュー協会全体の動き

・組織

理事長 : 吉永 和正
副理事長 : 伊藤 裕成
理事 : 河合 伸朗
理事 : 北畑 英樹
理事 : 早川 住江
理事 : 岡 武
監事 : 鵜飼 卓

職員数 : 14名

(事務局) 岡 武 (事務局長)

(事業部)

高木 美佑希 (災害救助犬事業責任者)
赤木 亜規子 (セラピードッグ事業責任者)
寺岡 祐介 (企画広報事業責任者候補)
南園 彩子 (セラピードッグ事業スタッフ)
辻本 郁美 (セラピードッグ事業スタッフ)
三原 麻耶 (セラピードッグ事業スタッフ)
守谷 賀予 (企画広報事業スタッフ)

(管理部)

伊藤 美貴 (経理総務責任者)

(佐賀県支部)

原田 亮 (佐賀県支部全般スタッフ)

(契約職員)

松林 良子 (災害救助犬事業スタッフ)
清水 春花 (災害救助犬事業スタッフ)
高橋 玲衣 (災害救助犬事業スタッフ)
江島 花奈 (佐賀県支部スタッフ)

・組織の動き

新職員 : 5名 (契約職員含む) 寺岡、清水、高橋、三原、江島

退職 : 6名 (事業部)

■事業の成果

【災害救助犬事業】

令和元年度も継続して災害救助犬の育成・派遣を実施しました。

・令和元年8月九州北部豪雨災害対応

被災地では、残念なことに非日常的な状況を逆手にとった犯罪も起りやすく、本災害も例外ではありませんでした。ボランティアセンターでの受付をしていない不審者による家財道具の持ち去りという事案が発生し、行政では警察によるパトロールの強化を行っていた為、佐賀県武雄警察署と連携し、9月8日・9日、災害救助犬「太陽」「金蔵（救犬ジャパン）」を連れて警戒警備活動を実施致しました。

・令和2年7月九州豪雨災害対応

令和2年7月九州豪雨災害を受け、災害救助犬2頭(HOPE・太陽)と隊員4名、企画広報1名と、他団体チーム「救犬ジャパン」災害救助犬1頭と隊員1名が、熊本県に向けて出動しました。

到着後すぐに行政機関と調整し、5日午前7時には熊本県津奈木町土砂崩れ現場にて、自衛隊・警察と連携しながら捜索活動を行いました。津奈木町では、土砂の堆積が深くまた活動中も継続して雨が降り続けていた為、現場はかなりぬかるみ、捜索活動は難航。残念ながら救助犬による明確な反応はなかったものの、少しでも反応があった箇所を指揮所に伝え、そこを中心とした捜索活動が実施されました。

7日、熊本県人吉市から出動要請が入り、午前10時、岡山県警の捜索隊とともに、福川下流の水門から上流に向かって、警察が同行して川の両岸を二手に分かれ、行方不明者の捜索を行いました。また午後からは消防・宮崎県大隊との連携で、安否確認出来ていない民家を見回り、家屋に人が残っていないか巡回確認をしました。

8日・9日は、自衛隊と連携し、熊本県人吉市上青井地区で活動を実施、当地区は河川に近く大きな被害が出ており、目撃情報から推測すると、行方不明者は流された可能性が高いとのことでした。捜索範囲がかなり広範囲となり、自衛隊から情報の提供、車両の誘導、安全管理などの全面的なサポートを受け、救助犬が周辺の土砂や瓦礫を捜索しましたが残念ながら反応はありませんでした。

9日、対策本部にて要請がないことを確認したため撤退、10日15:00ごろ、災害救助犬2頭、隊員2名は無事に兵庫県本部に帰還しました。本災害では、被災地と協定がなかったものの、発災後比較的早いタイミングで現地と調整が付き出動することが出来ました。これは、災害救助犬の認知度が全国的に少しずつ定着してきていると考えられます。しかし、現場の救助隊は救助犬とどのように連携したらいいかわからないと戸惑っていることも多く見受けられ、地元の救助隊とソフト面を強化し広めていく活動は引き続き必要だと感じました。

・災害救助犬の標準化に向けた事業

災害救助犬が人命捜索の一つの手段として有効に運用される社会を目指すため、本年度も神戸市消防局をはじめ、様々な関係機関と連携を図り、救助犬を活用した救助体制のモデル構築に励みました。地元の兵庫県川西市消防局との本格的な連携訓練は、本年で4回目の実施となり、徐々に顔の見える関係の構築が進んできました。また、次年度はより発展的な連携訓練を実施する為、兵庫県広域防災センターの瓦礫施設を使用した訓練を協議しております。また、神戸市消防局とは初めて山岳の想定訓練を実施し、山岳では救助犬にどのような利点と欠点があるのか確認しながら、GPSの活用や捜索方法の検討を行い、平時

からの連携に向けて進んでいます。なお、山岳での行方不明者捜索につきまして、昨年度協定を締結した西宮市消防局とも積極的な連携が出来、2度の連携訓練を通して活用の有効性を理解して頂きました。

・他機関との連携および訓練

本年度も他の救助犬団体との連携を図るために、合同訓練の実施やセミナーの開催を行い、また全日本救助犬団体協議会に参加していない救助犬団体とも積極的に交流を深め有事に備えています。特に、大阪で活動している「救犬 JAPAN」との積極的な連携に努め、イベントや消防との訓練においても合同で実施しました。また8月には、長野県へ合宿訓練に行き、救助犬のレベルアップおよび他団体との情報交換に努めました。

・山岳捜索セミナー（岐阜）開催

山岳での行方不明者捜索の需要が増えてきたことに重ね、昨年（平成30年）7月豪雨災害での他団体との連携の重要性を実感したことから、本年もスペシャルレスキューサービスジャパン株式会社代表の佐藤氏を講師に招き、岐阜県にて山岳の講習会を開催しました。この講習会では、日頃連携している救助犬団体へお声掛けし、交流の場として、そして今後の連携について考える場としても活用しました。東京、神奈川、千葉、愛知、徳島、大阪、という全国各地から2日間で6団体12名の救助犬ハンドラーと15名の消防隊員が集結しました。山岳捜索での効率的な考え方、計画の立て方、連携の仕方など座学と実践訓練を通して学びました。

・救助犬サポーター養成講座開講

2020年1月より、救助犬サポーター養成講座を開講致しました。救助犬サポーター養成講座は、座学や犬舎見学、救助犬との触れ合い、質疑応答などを通して、救助犬の認知度を上げることが目的です。今年度は、5回開催し14名の方が受講しました。

・しつけ教室開講

愛犬家に向けて、犬との暮らしをより良いものとする為、12月にしつけ教室を開講致しました。延べ7組の方が受講しました。

・災害救助犬候補犬の導入

令和元年7月6日生まれ、ラブラドルレトリバーのオスを9月に徳島県の救助犬関係者赤木氏より導入。「結道（ゆいと）」と名付け、現在訓練中。

令和元年8月1日生まれ、ベルジアンシェパードドッグのメスを10月に大島ドッグトレーニングスクールより導入。「道（あゆむ）」と名付け、現在訓練中。

・協定締結

令和元年11月28日 兵庫県西脇市（行政との協定：53番目）

・その他

- ・2019年度エクセレントNPO大賞にノミネートされました。
- ・災害救助犬「J」引退

- ・災害救助犬訓練犬「グリュック」「ラフィー」、リタイア・譲渡
- ・2020年8月にYahoo! ネット募金立ち上げ

- ・**災害救助犬事業人材確保**

今年度は、2名を契約職員として確保しました。

【セラピードッグ事業】

令和元年度も継続してセラピードッグの育成・派遣を実施しました。

※3月の新型コロナウイルス感染対策による緊急事態宣言を受けて、通常訪問・被災地慰問・大阪母子医療センターへの訪問・イベントなど全ての活動が中止となり、計画通りの活動ができていません。緊急事態宣言が解除されてからも再開の目途が立たず、訪問に替わる活動を検討しています。

・令和元年8月九州北部豪雨災害被災地慰問（令和元年9月29日／佐賀県）

被災地支援時に連携した武雄市のおもやいボランティアセンターから要望をいただき、「子どもの遊び場」と「おもやいボランティアセンター」へ龍馬とみらいの2頭が訪問しました。おもやいボランティアセンターとの連携により、発災後1ヶ月という早い段階での慰問活動が実現しました。

子どもの遊び場は、武雄市内で浸水被害に遭われた方からの「週末に家の片付けをしている間、子どもを預かってほしい」という要望から始まったおもやいボランティアセンターの活動のひとつで、小学校に併設された放課後教室の一室を使用し、子どもたちの預かりや炊き出しをしています。訪問した日は、武雄警察の協力によるパトカー乗車体験や、支援団体による足湯サービスが開催されていました。屋外の一角にマットを敷き、出入り自由な形でふれあいや、お散歩体験、セラピードッグの写真入り缶バッジづくり、撮った写真をすぐに渡せる「チェキ」を使用した写真撮影を行いました。スタッフの方は、子どもたちとの会話が増えてきていると感じていて、この日は特に犬とのふれあいや缶バッジを作ったことなどを子どもたちから話しに来てくれたと喜んでおられました。

おもやいボランティアセンターでは、毎日活動されているボランティアセンターのスタッフのみなさんにセラピードッグとふれあっていただきました。「癒される!」「また来てほしい」とロク々に言っていたいただき、発災後1ヶ月というタイミングだからこそできる「支援者支援」の有効性も実感しました。

・東日本大震災被災地慰問（令和元年10月23日・24日／岩手県釜石市）

セラピードッグ2頭（にこり・龍馬）と共に岩手県釜石市を訪問しました。

訪れた「復興住宅」では、災害により家を失った方々が地元のコミュニティから離れ生活されています。毎回、セラピードッグの訪問をきっかけに皆さんが一つの場所に集まり、私たちに震災当時のお話をしてくださいます。セラピードッグの訪問が、長く続く避難生活の中で出てきた「コミュニティの構築」という課題解決の一助となっていると、現地で支援活動をされている方からも嬉しいお言葉を頂きました。

また、釜石市では昨年の台風19号により、浸水や土砂崩れなどの被害に見舞われ、滞在中も山からの土砂で汚れた道路の整備が行われていました。訪問した復興住宅の皆さんも「9年前の震災に続く新たな災害の後で、疲れた心が楽になった」と、セラピードッグとのふれあいを楽しんでくださいました。

今回、東日本大震災被災地支援のために訪れた岩手県釜石市ですが、台風19号による被害も重なり、今年度もセラピードッグによる支援の形について検討していく予定です。

※現在までの訪問に替わる活動として、「釜石支援センター・望」の海老原様へ、オリジナルカレンダーとぬりえを発送し、復興住宅の皆さまに配布頂いております。

・平成30年7月豪雨災害被災地慰問（令和元年11月9日／広島県坂町・11月10日／愛媛県大洲市）

セラピードッグ4頭（希、龍馬、みらい、バター）と共に広島県坂町と愛媛県大洲市を訪問しました。

広島県坂町では、今回で3回目の訪問となる平成ヶ浜仮設住宅と、前年度7月に訪問予定だった小屋浦の坂町有住宅「めじろコーポこやうら」（前回は豪雨のため開催場所が避難所として開設されたため中止）

を訪問しました。お子さんからご年配の方までたくさんの方がきてくださり、世代間のコミュニケーションが印象的でした。

坂町支え合いセンターの方のお話によると、平成ヶ浜仮設住宅は、2018年12月に初めて訪問した際の入居率から比べて6割になっており、2020年4月で終了となる見通しで、現在入居している方は公営の復興住宅等に順次移っていくことになるとの事でした。また、坂町有住宅では、町有住宅のすぐ目の前に建設中の公営住宅が2020年春に完成予定で、町有住宅に住んでいる方がそちらへ動くことになるとの事でした。坂町議会議員の安竹さんは、町有住宅の中でもコミュニティができてきている中で、建設の見直しを訴えたが届かなかった、と仰っていました。災害から2年が経ち、コミュニティの形が変わりつつありますが、ご要望がある限り支援を続けられるよう模索していきたいと考えています。

翌日、愛媛県大洲市の秋のお祭り「福祉と健康づくり 市民のつどい」に参加しました。地域のお祭りや家族連れが多く、セラピードッグのコーナーにも多くの方が立ち寄ってくださり、ふれあいや写真撮影などを楽しんでいただきました。祭の来場者のほかに、イベント運営側のボランティアの方もたくさん立ち寄ってくださり、犬たちとのふれあいを楽しんでいただきました。

また、ペットを飼っている方に向けて、災害時に大切なペットを守る「災害への備え」のための呼びかけやチラシの配布を行いました。

・熊本地震被災地調整（令和元年12月12日／熊本県南阿蘇）

令和2年4月開催のウォークイベント「南阿蘇・黒川ウォーク」に参加するための調整を進めていましたが、新型コロナウイルス感染対策により中止となりました。住民の方々との交流を通して、黒川地区の復興のあゆみを村内外の皆さまに知って頂くという内容で、秋以降で開催予定との事です。

また、南阿蘇村役場・復興推進課の方から、復興住宅の建設が進む一方で、仮設住宅に残られる方の孤立という新たな問題についても、セラピードッグによる支援活動の要望が挙がっています。

コロナ渦により活動再開の目途は立っていませんが、引き続きニーズ調査を継続していきます。

・大阪母子医療センターでの取り組み

新型コロナウイルス感染対策による緊急事態宣言を受けて、3月より大阪母子医療センターへの訪問活動が中止となっています。病院では、全てのイベントの中止と、緊急事態宣言が解除された今も続くご家族との面会規制により、子どもたちも強いストレスを感じているそうです。未だ訪問再開の目途は立っておらず、セラピードッグとの交流を楽しみに待つ子どもたちのため、何か訪問に替わる活動ができないか、病院スタッフとリモートによる協議を重ねています。

現在までには、セラピードッグがモチーフの「ぬりえ」のプレゼントや、1頭1頭の普段の様子を撮影した動画をDVDやデータで配布するなど、子どもたちへのアプローチを続けています。

10月からは、病院の子どもたちとセラピードッグを遠隔で繋ぐ「オンラインドッグセラピー」の実施が決定しています。オンラインでの交流を通して、子どもたちを元気づける活動を開始します。

例えば、隔離されている子どもの病室へタブレットを持ち込みオンラインでセラピードッグと繋いだり、スマートフォンから送った動画をリアルタイムで見ってもらう事ができます。そのほか、SNSアプリを活用する事で、面会を制限されているご家族にも子どもと一緒に「オンラインドッグセラピー」に参加して頂けるのではないかと企画しています。

また今後、感染症や安全面への懸念からセラピードッグの導入を躊躇されている他病院にも、「オンライン」である事で、比較的スムーズに「ドッグセラピー」を受け入れてもらえるのではないかと期待して

います。

※国立国際医療研究センター病院につきましても、11月から年内に「オンラインドッグセラピー」の実施が決定しました。

(活動資金について)

前年度に引き続き、「積水ハウスマッチングプログラム」と「大東建託みらい基金」の助成により活動することが出来ました。

新型コロナウイルス感染対策により、どちらも申請通りの活動ができず、それぞれに細かな情報交換やリモートによる中間報告を重ねています。「子どもとご家族を元気づける」という目的は変わらないため、訪問に替わる活動に掛かる経費は認められています。

「オンラインドッグセラピー」についても、大変興味を持ってくださり、今後の活動報告を楽しみにされています。

そのほか、継続中のYahoo! ネット募金では、9月末現在約130万円の寄付が集まっています。今後長く続く大阪母子医療センターへの活動資金として、大切に使用致します。

毎日当たり前のようにセラピードッグがいる病院を目指して、また、子どもたちだけでなくご家族や病院スタッフも元気づける活動を長く継続できるよう、尽力して参ります。

昨年に引き続きドナルド・マクドナルド・ハウス財団より助成を頂き(¥254,850)、セラピードッグ達の医療費と児童デイサービスメルモへの訪問費として使用しています。(助成期間2020,8~2021,3)当初6回の訪問実施予定でしたが、メルモが急遽9月末で閉所することになり、4回となりました。メルモでは、セラピードッグたちが来ることを子どもたちとスタッフさんが楽しみに待っていて下さいました。子ども達と一緒に寝転びのんびりしたり、キャッチボールやフープジャンプをしたり、終始子ども達も楽しそうに過ごしてくれていました。スタッフさんからは「普段は力が入って筋肉が固まり、腕の動きが硬くなってしまう子もセラピードッグをなでる時には腕のこわばりがなくなり、自然と優しくなでることができていた」との声も頂くことが出来ました。

・セラピードッグハウス「心と心」の運営

予約制	個人の方	施設など団体の方
ふれあい体験 (30分)	○大人1名(高校生以上)・・・500円 ○小中学生1名・・・200円 ○小学生未満1名・・・100円	—————
ドッグセラピー プログラム体験 (1時間) 定員15名	○大人1名(高校生以上)・・・1,000円 ○小中学生1名・・・400円 ○小学生未満1名・・・200円	○7名様まで・・・6,000円 ○8名様以上・・・10,000円

・個人ふれあい体験大人7名、小学生未満2名、

・セラピードッグプログラム体験大人32名、小中学生3名、小学生未満名

合計45名、¥34,800(前年度より¥5,300アップ)

新型コロナウイルス感染予防により訪問活動がほぼ行えていないなか、セラピードッグハウスは3月から活動を休止しておりましたが、7月より活動を再開しました。再開を待って下さっていた方もおり、再開

後すぐから少しずつお問い合わせをいただいております。取材して頂く機会も増え、セラピードッグハウスの取材後ハウスへの問い合わせも少しずつ増えてきています。

・セラピードッグ派遣事業

今期の通常時の訪問活動は、高齢者施設 54 回、障がい者の支援施設 11 回、病院 6 回、子どもの施設 7 回、大阪母子医療センター 23 回合計 101 回訪問しました。その中で新規の訪問施設は 7 ヶ所でした。新型コロナウイルスの感染予防の為 3 月よりはほぼ訪問が行えず、7 月からまだ数ヶ所ですが訪問活動を開始しました。訪問がキャンセルになってしまった施設や、最近お世話になっている施設へ、新型コロナウイルスが終息したらまたご依頼頂けるように、協会のカレンダーとお手紙をお送りしました。

・武庫川女子大学付属図書館にて、子どもたちがセラピードッグに読み聞かせを行う R. E. A. D. プログラム「絵本読み聞かせ会 セラピードッグといっしょに」を今年も 2 月に開催しました。2018 年より年 2 回の頻度で行っております。子どもの読書力や言語力を向上させることがねらいで、セラピードッグがそばに寄り添って聞いてくれる事から、人に読み聞かせするよりも恥ずかしさがなく、読書への自信をつけやすいといわれています。3 月には大阪府岸和田市の「岸和田図書館」からもご依頼をいただいていたが、新型コロナウイルス感染予防の為延期となってしまいました。先方からは中止ではなく、延期にしてほしいと言って頂けましたので、新型コロナウイルスが終息した際には、是非開催をしたいと考えています。子どもたちが本を手取る機会が増えるよう、今後も引き続き活動に取り組んでいきたいと思っております。次回は武庫川女子大学にて 2021 年 2 月に開催を予定しております。

・セラピードッグ候補犬の育成

【けんた】次世代のセラピードッグ候補犬として、「大東建託みらい基金」により、ゴールデン・ドゥードルの「けんた」を育成しています。セラピードッグとして活動するための「潜在性・適正テスト」を遅くとも 11 月中には実施する予定です。大阪母子医療センターの子どもたちへの動画や SNS、メディア取材ではすでに活躍しており、多くの人を癒す存在となれるよう訓練に努めます。

【笑吉】6 月に引き取った保護犬を、セラピードッグの素質があると判断し育成しています。まだまだ訓練を始めたばかりですので、様々なものに対する反応など慎重に見極め、訓練を継続していきます。

平成 31 年度で 6 年目となる非常勤講師を慈恵学園の大阪 ECO 動物海洋専門学校で務めさせていただき、セラピードッグ事業に従事する後進の育成にも力を注いでいます。

また、職員 1 名を雇用し、セラピードッグ事業と福祉事業（被災地支援を含む）の事業内容の把握はもちろん、社会人のマナーなどについても指導しています。

これからも災害救助犬やセラピードッグの育成・派遣に努め、同時に動物福祉の啓発活動をますます充実させていくべく努力してまいります。

【動物福祉事業】

令和元年度も主に動物の保護・愛護活動を実施しました。

・犬の保護、引き取り及び管理に関する事業

昨年度から犬10頭の飼養管理を継続し、今年度は犬2頭の保護、引き取りを行いました。

令和2年4月末に1頭、病気により死亡。

令和2年8月31日現在、犬9頭を管理し里親募集を行っています。

・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業

犬2頭を一般家庭に譲渡しました。(行政機関からの引き取りはなし)

・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業

行政収容所(動物愛護管理センター、保健所、警察署など)の収容動物を一般家庭へ譲渡率を向上させるため、他の団体や動物愛護活動家と協働し犬11頭と猫25頭に医療等を施し、犬9頭と猫13頭を一般譲渡する事ができました。

今年度の掛かった費用総額は1,518,325円。財源は平成28年12月から参画したYahoo!ネット募金(行政に収容された犬や猫に必要な医療を受けさせ里親を見つけない)から充当しました。

※今年度の募金総額:1,819,045円

・災害への対応

【令和元年8月九州北部豪雨災害】

令和元年8月28日を中心に九州北部で起きた豪雨災害において、浸水・土砂崩れ等の被害が発生した佐賀県内で、被災したペットと飼い主の支援を前年度8月30日より開始し、今年度も継続して支援活動を行いました。

今災害では、日本レスキュー協会が事務局を担うSPFが主催する災害支援情報共有会議を通して各団体と連携をとったことにより、多くのペットと飼い主への支援につなげることができました。これまでの災害における、避難所訪問を主とした被災ペット支援に加え、避難所や行政ではなかなか把握しきれない多くの在宅避難者への細やかな支援をすることができたと実感しています。

前年度に引き続き、浸水と油の流出により甚大な被害が発生した大町町の避難所で、ペットと共に避難したが避難所の建物内にペット同伴での避難ができず、避難所の外で寝泊まりをしていた家族2組に対し、8月31日より、協会所有のキャンピングカーの無償での貸し出しを開始、見回りと給油等の管理を9月12日まで行いました。また、油の流出があった地域周辺では、情報共有会議を通じて、報道関係者から在宅避難者情報をもらい、個別訪問による支援につなげることができました。

各地で土砂崩れが発生した小城市では、連携団体や地元ボランティアセンターを通じて犬の飼い主の情報を入手、2家族と接触し、ペット用物資の支援やニーズ調査、飼い犬へのシャンプーケアなどを行いました。ペットへのケアをきっかけに、住民とのコミュニケーションが円滑になったというケースもあり、ペットへの細やかなケアや支援の重要性を再認識しました。

武雄市では、市内の有志が集って設立された民間ボランティアセンター「おもやいボランティアセンター」と連携して支援を行いました。地元ではボランティアセンターが中心となり、被災地域の住宅を一軒ずつ訪問して被災状況やニーズの調査を行う、いわゆる「ローラー作戦」が実施されており、一軒一軒の

細かいニーズが集約されていました。ただ、ペットに関してのノウハウがない事から、ペットに関する支援につながっていない状況だったため、情報共有を図り、被災地域の住宅へ直接訪問し、ペット用物資の支援やニーズ調査を行いました。

情報共有会議を通して多数の団体と連携できたことにより、避難所では把握しきれない、個別の被災者情報を得ることができました。その情報をもとに被災者に対して物資提供と共に傾聴（ペットの話）を行ったことで、被災者の方の「ペットをかまっていられない」「どこに相談したらよいかわからない」といったニーズとして認識されにくいニーズを掘り起こすことができ、ペットへのケアが結果として「この子がいるから頑張ろう」といった、被災者の生活再建のためのモチベーションの向上につながるのだと感じました。

今回の災害支援については、SPF 情報共有会議をはじめ活動の最中に接触した県議会議員からも評価を得ており、のちの県議会における災害に関する議題の中で、随所で協会の活動に関して紹介していただいています。

【令和元年東日本台風（台風19号）】

10月12日に日本列島に上陸し、東日本を中心に極めて甚大な被害をもたらした台風19号の被災地のうち、特に被害の大きかった長野県と福島県へ入り、被災したペットと飼い主への支援を行いました。

長野県では10月14～16日と22～24日に、長野市、千曲市、上田市、須坂市の避難所を調査し、ペット連れの避難者に対してペット用物資の提供とニーズ調査を行いました。

長野県NPOセンターが主催する災害支援情報共有会議に参加し、他団体との連携を図りました。このつながりで長野県庁生活衛生課へ避難所調査の情報提供を行いました。

また、協会のSNSを通じて、地元で活動されている長野県動物愛護会の会員の方からコンタクトがあり、避難所調査の情報共有を行いました。

10月18～20日に福島県いわき市に入り、支援活動を実施しました。個人の方から協会SNSへ、いわき市内の寺院が在宅避難者向けの物資拠点になっており、ペット用物資の支援要請があったため物資の調達と輸送を行いました。この寺院を含む周辺地域は立地により孤立したような状況になっており、公的支援や民間の支援が行き届いておらず住民同士で助け合っている状態であること、寺院も物資拠点としての人手が著しく不足している、という訴えがあった為、地域の災害支援に特化した民間の災害ボランティア団体へ情報提供し、地域への支援につなげられるよう連絡を行いました。後日、この寺院に災害ボランティア団体が接触し、周辺地域への支援を開始したとの連絡も受け取っています。

【令和2年7月豪雨災害】

7月3日から九州地方中心に大きな被害をもたらした豪雨災害において、主にペット用物資支援を実施しました。

今回の災害では、新型コロナウイルス感染拡大の懸念があり、発災直後から県外の支援団体やボランティアの被災地入りを控えてほしいとの意向が各自治体より示されていたことが影響し、早期の被災地入りを見送り、情報収集と地元団体との連携を重視して被災地支援を進めました。

熊本県を拠点とする一般社団法人HUGと連携し、HUGの呼びかけで全国から集められたペット用物資を佐賀県支部で受け入れました。物資は九州各地の被災地へ車で輸送または郵送を行いました。

熊本県動物愛護センターへ輸送した物資は熊本県下の保健所を通して避難所や仮設住宅へ届けられています。佐賀県支部スタッフと協働し、佐賀県武雄市のおもやいボランティアセンター、大分県日田市の

特定非営利活動法人リエラ、福岡県大牟田市のちょこボラを通じて物資を届けました。また、熊本県で活動する動物愛護団体フィリアへ送付した物資は、人吉市・球磨村で在宅避難をされている住民に特化した支援物資拠点に届けられました。

熊本県動物愛護センターと動物愛護団体フィリアへの物資提供については、次年度も継続して行っています。

・保護犬を災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業

今年度は6月に保護した犬を1頭セラピードッグになる為に異動し、訓練を進めています。

・犬のしつけ方教室の開催

子犬の時から効果的なしつけを行われなかった成犬は「吠える」「咬む」などの問題行動を起こす場合があります、この問題行動が要因となり飼い主がペットに対する愛情が薄れ、結果的に保健所に持ち込まれるケースは少なくありません。

毎月1回、スーパービバホーム大阪ドームシティ店で「愛犬しつけ方教室」を開催し、飼い主に対し効果的なしつけ方を教えています。今年度は、10月開催日は台風19号被災地支援のため中止しました。また、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令され、兵庫-大阪間の週末の移動自粛要請が出た影響で、4月以降しつけ教室の実施はありません。

今年度は、5回開催（10月、1月、4～8月開催せず）、7組の参加があり、16,980円の売上でした。

・愛犬とともに学べる防災知識の向上に関する発信

各種ペット関連のイベントにおいて、ペットの飼い主に向けて「災害に対する備え」の重要性を知ってもらうための啓発活動を行いました。これまでの災害で、被災地で行なってきた被災ペットへの支援活動を元に情報発信をしています。

災害時には人命が最優先とされるため、家族であるペットの命を守るのは飼い主であるということ、そのためには日ごろからの備えがとても重要であることを飼い主に知ってもらい、「災害現場や避難所での事例」「備えておくべき非常用持出品」「日ごろから取り組むべきしつけ」などについて発信を行っています。

今後起こるかもしれない災害に向けて、もっと多くの方にペット防災に関する発信をしていきたいと考えています。

・動物福祉事業組織体制

今年度より動物福祉事業は専属職員を置かず、本部職員全体で事業を実施しています。

動物福祉事業責任者は事務局長が兼任しています。

【佐賀県支部】

令和元年度も継続して佐賀県支部の事業拡大に努めました。

・活動資金調達について

活動資金源として、ふるさと納税による資金調達計測中（平成30年9月スタート）

ふるさと納税寄付額 85,433,683円（令和元年9月～令和2年8月末日）

令和元年10月1日～令和元年12月31日（92日間）ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」にて設定金額1000万円のGCF（ガバメントクラウドファンディング）開始。タイトルは「【第2弾】災害救助犬とセラピードッグを育成・派遣し、ワンコと人がいつでも寄り添い・共生する拠点をつくりたい！」
12,048,614円集まり、目標金額を大幅に達成。

令和2年5月25日よりふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」にて設定金額2000万円のGCF（ガバメントクラウドファンディング）開始。タイトルは「【第3弾】災害救助犬とセラピードッグを育成・派遣し、ワンコと人がいつでも寄り添い・共生する拠点をつくりたい！」

2020年5月25日から8月末までの予定だったが、達成見込みがあるということで年末まで延長し、目標金額達成に向けて継続中。

・災害救助犬事業

佐賀県内での積極的な広報活動により、少しずつ認知されていき、様々なイベントや施設にてお声がけいただいた。（詳細は別紙参照）

佐賀県内に訓練設備を併設した拠点が出来次第、佐賀県支部にて災害救助犬の育成・派遣を進めていく予定。（土地に関しては下記のその他参照）今後九州圏内で災害が起こった際には佐賀県支部より災害救助犬を派遣できるような体制を構築していく。前年度に引き続き公的な救助機関や県内のNPO（SPFとその賛同代替など）と平時からの連携訓練を実施し、顔の見える関係を築いていく。

令和元年8月豪雨災害においては被災地である武雄市の警察と連携して、災害救助犬を連れて防犯パトロールを行い、被災地での空き巣などの犯罪の抑止力となった。

・セラピードッグ事業

佐賀県内での積極的な広報活動により、少しずつ認知されていき、様々なイベントや施設にてお声がけいただいてふれあいイベントを開催。（詳細は別紙参照）

イベントの写真撮影の際には日本レスキュー協会とわかるパネルを持っていただき、さらにインスタグラムなどのSNSでハッシュタグをつけて（#日本レスキュー協会）の拡散依頼まで行うようにした。今後も継続して行うことにより、日本レスキュー協会の認知度向上に大きな効果が期待できる。

佐賀県内に訓練設備を併設した拠点が出来次第、佐賀県支部にてセラピードッグの育成・派遣を進めていく予定。（土地に関しては下記のその他参照）

また、今後も引き続き熊本地震被災地に寄り添った活動を展開予定。

・本部動物福祉事業関連

令和2年7月豪雨災害において、日本レスキュー協会佐賀県支部は兵庫県の本部と被災地を繋ぐ中継地点として機能した。

本部の動物福祉のチームにて寄附物資を募り、集めてもらった寄附物資を佐賀県支部の倉庫にて仕分け・整理。被災地へ近い佐賀県から直接車を使つての陸送、ときには配送業者を利用する等の物資支援を行う。

7月13日午前、本部の動物福祉のチームと共に、全国各地から届けて頂いた支援物資の受け入れ作業を行い、7月15日、大分県日田市で川の氾濫の被害があった天ヶ瀬の被災地へ犬・猫のフード、消耗品などのほか、工業用扇風機2台とリビング用扇風機2台をお届けした。

7月16日、熊本県を拠点とする一般社団法人 HUG 富士岡代表との連携のもと、熊本県動物愛護センターにペット用災害支援物資の搬入を行う。

7月18日、大分県中津江の避難所へ、地元大分県で活動する団体と連携して、ペット用品や扇風機などの物資の提供を行う。

7月20日、日本レスキュー協会佐賀県支部にお送りいただいた、ユニ・チャーム株式会社様からの豪雨災害支援物資を、社団法人佐賀青年会議所様の協力を得て、熊本青年会議所の物資倉庫にお届けした。

※日本レスキュー協会佐賀県支部は佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）の事務局を担っており、今回の繋がりには SPF と佐賀青年会議所の協定締結が基になり実現した。

7月31日、福岡県大牟田市で物資支援をされている団体を通じて、佐賀県支部にお送りいただいたペット用物資をお届けした。

8月3日、人吉市社会福祉協議会にペット用品の配送手配を行う。

8月13日、熊本県フィリア田尻様の仲介のもと菊池保健所、動物愛護センターへペット用品の配送手配を行う。

・その他

佐賀県支部創設当初より佐賀県内にて訓練設備を併設した拠点設置のための広い土地を探しており、現在2つの候補地有。一つ目の候補地が大町町所有の土地で、二つ目の候補地が佐賀市三瀬のどんぐり村内の一部の土地。行政との連携の見込める大町町を第1候補と考えているが、どんぐり村内の一部の土地も賃料が安価の為、訓練用として使えないかを検討中。令和2年10月23日に大町町と進出協定を結び、候補地の整地から着工開始予定。

令和元年1月に佐賀県と協定を結んだ SPF（佐賀災害支援プラットフォーム）に賛同団体として参加。SPFは佐賀県内の様々なCSO（市民社会組織）51団体（令和2年8月現在）が災害時に協力して支援を行うために集まった組織。

日本レスキュー協会は令和元年8月九州北部豪雨の発生後、SPFの緊急対応事務局として機能してきた。2019年の8月豪雨の発災からすぐに情報共有会議（葉隠会議）を手配。県内外の支援団体および行政、社会福祉協議会などを招き、それぞれのもっている情報を集約、共有することで各支援団体とのマッチングを行う。発災直後は毎日のように開催して、最終的に16回開催した。

その他各被災地に足りない物資等を調査し、スマートサプライや支援で集まった物資を手配。

また、全体の共有会議だけでなく、各地域ごとの細かなニーズに応えるべく、小城市、大町町での情報共有会議を開催。小城市では7回、そして大町町では現在も継続中。顔の見える関係を作り、今後も協力体制を取ることができるようになった。その流れから大町町の土地の紹介の話も出てきた。

平時においても定例会の開催に関する賛同団体へのメールの手配、議事録報告に加えて、経理・総務に

関する資金の管理など様々な事務局業務を担っている。

佐賀災害支援プラットフォームの賛同団体・事務局として 2020 年 2 月 15 日さがつく award×佐賀県×地球市民の会=「みんなのAward」に参加。

そこで行われた「令和元年 佐賀さいこう表彰式」にて、佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)は"自発の地域づくり部門"での表彰を頂く。

佐賀災害支援プラットフォームの活動として、新型コロナウイルスを「災害級」のものと位置づけし緊急支援としてマスクの配布を 3 回実施した。第 1 弾 (2020/4/1) 第 2 弾 (2020/4/15) 第 3 弾 (2020/5/19) に実施した。

【事業詳細については、別紙に記載】